

▽取組事例名	基金の有効活用	▽取組期間	平成20年度～ (継続中)
		▽市町名	松山市

▽取組概要
各基金の運用について、元本の償還及び受取利息の確実性を確保するとともに、計画的に運用することで、より有利な運用益の確保に取り組む。

▽取組みの背景
ペイオフ制度の凍結解除や厳しい財政状況の中、地方自治法では「普通地方公共団体の歳入歳出に属する現金は政令の定めるところにより、最も確実かつ有利な方法で保管しなければならない」と規定されており、基金の確実かつ有利な運用が求められていた。

▽取組みの狙い・具体的内容
(取組みの狙い) 確実かつ有利な運用益が得られるように計画的な運用を実施する。
(具体的内容) 平成20年度から財政課、会計事務局、管財課の三課協議により基金運用計画を作成し、財政調整基金などの各種基金について、債券運用目標額を定めるとともにラダー型の運用に取り組む。 また、運用にあたっては、入札制度を取り入れることで、より有利な運用に努める。 さらに、平成22年12月から購入する債券にこれまでの国債、政府保証債、地方債に加え財投機関債も購入できるよう制度変更を行うとともに、平成23年度から10年債の購入も実施している。
※ラダー型運用：各年限の債券を均等な割合で組み入れ運用すること。構成を見るとはしご（ラダー）状になっていることからラダー型と呼ばれている。

▽取組みを進めていくなかでの課題・問題点（苦労した点）
中長期的な繰替運用額の見込を立てる中で、運用可能試算額を積算すること。

☆工夫した点
<ul style="list-style-type: none"> より有利な運用益を確保するために入札制度を取り入れた。 運用可能額を増やすために、国からの補助金や地方債等の収入時期を早めることなどで、繰替運用額を削減させた。

▽取り組みの効果

基金の積極的な運用により、平成17年度に1,700万円程度であった運用益は、平成20年度には約3億円まで増加している。

▽住民（職員）の反応・評価

歳入の増加には、確実に寄与している。

☆取り組み効果を踏まえたフォローアップ

運用期間を長期化する方向にシフトすることで、より有利な運用益を確保する。

☆将来的な構想のほか、他団体へのアドバイス

確実かつ有利な運用を念頭に、新たな金融商品等の開拓を進め、さらなる運用益の確保を図る。